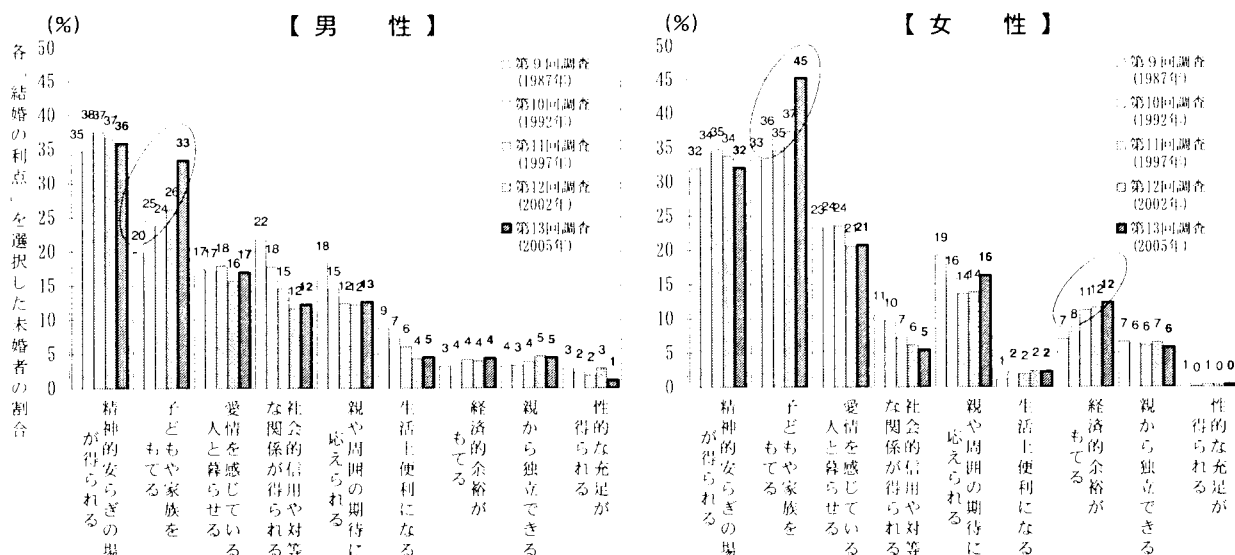


結婚の利点は「自分の子どもや家族をもてる」ことが大幅に増加

結婚の利点として男性では「精神的な安らぎの場が得られる」が最も多いが、女性では「自分の子どもや家族をもてる」が最も多く、後者は今回調査で男女とも大幅に増加した。三番目に多い利点として男女とも「愛情を感じている人と暮らせる」が続き、現在の未婚者の感じる結婚の利点は内面的事柄が上位を占めている。一方、結婚の実利面については、男性で「社会的信用を得たり、周囲と対等になれる」「生活上便利になる」が減少傾向にあったが、今回は横這いとなった。女性では「親や周囲の期待に応えられる」がやや増えたほか、「経済的余裕がもてる」を利点とする者がわずかずつ増える傾向にある。

図1-7 調査別にみた、結婚することの利点

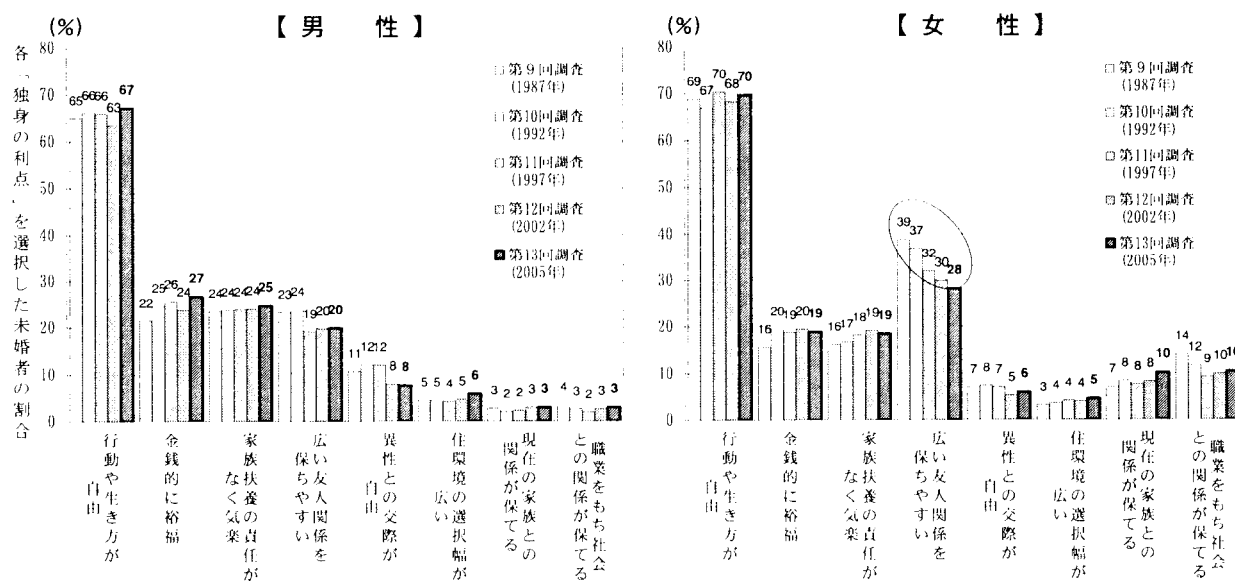


注：18～34歳未婚者のうち何%の者が、各項目を主要な結婚の利点（二つまで選択）として考えているかを示す。

独身生活の最大の魅力は「行動や生き方が自由」であること

独身生活の利点は、男女とも圧倒的に「行動や生き方が自由」を挙げる人が多い。それ以外では「金銭的に裕福」「家族を養う責任がなく、気楽」「友人などの広い人間関係が保ちやすい」などが比較的多い。これらのパターンは調査ごとにほとんど変化がない。すなわち未婚者は結婚すると行動や生き方、友人関係などが束縛され、家族扶養の精神的負担が加わると一貫して考えている。ただし、女性で広い友人関係が保てることを独身生活の利点とする人が漸減しており、この点に関する結婚の束縛感は緩んでいる。

図1-8 調査別にみた、独身生活の利点



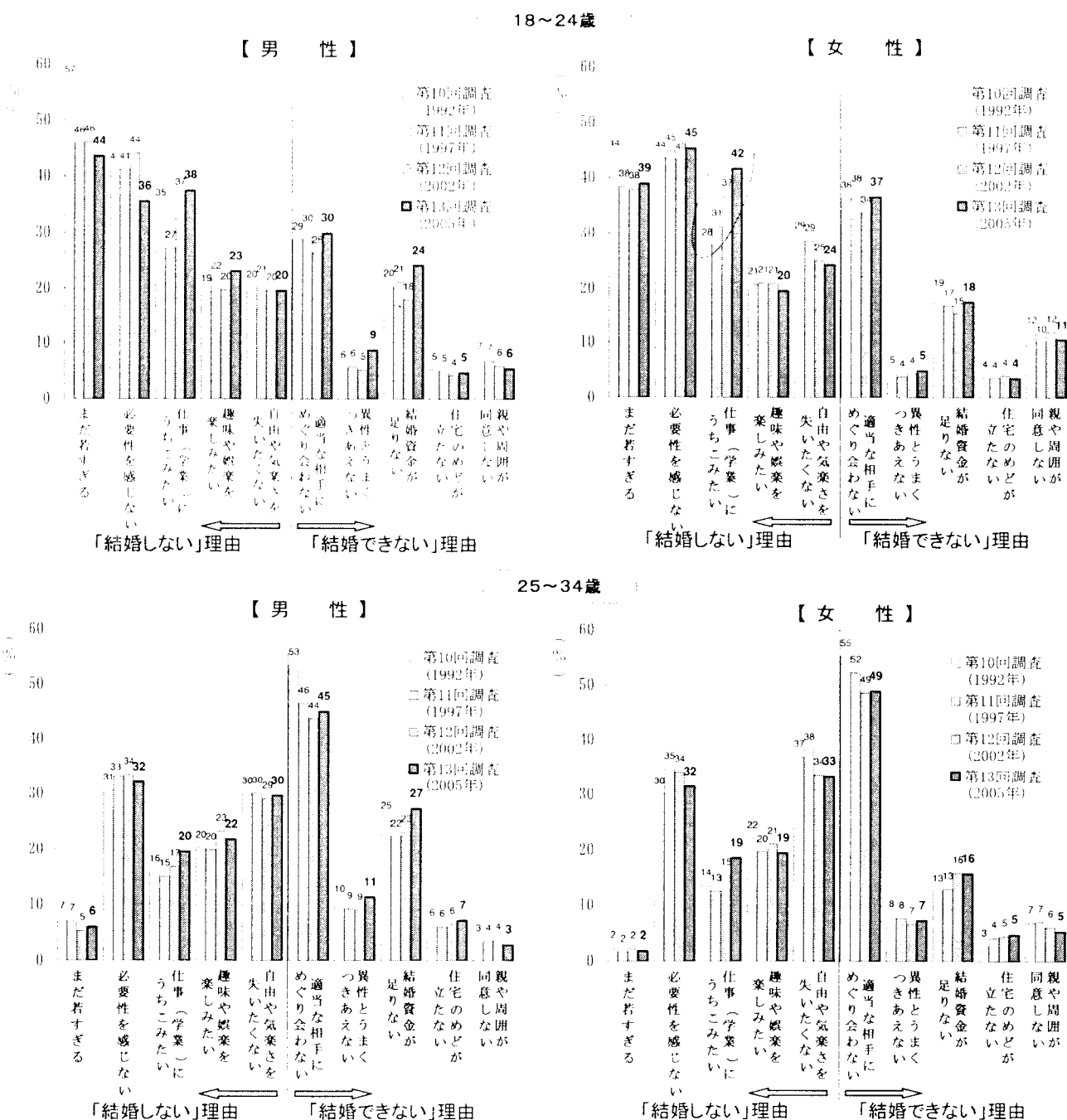
注：18～34歳未婚者のうち何%の者が、各項目を主要な独身生活の利点（二つまで選択）として考えているかを示す。

(3) なぜ結婚しないのか？

結婚をする積極的理由の欠如や、25歳を過ぎると適当な相手がいないことが制約

未婚者に現在独身にとどまっている理由をたずねたところ、25歳未満の若い年齢層では「まだ若すぎる」「必要性を感じない」などの結婚の必然性の欠如や、「仕事（学業）」、「趣味や娯楽」などの競合するものの存在、さらには「自由や気楽さを失いたくない」など、結婚をする積極的理由の欠如を意味する項目が多く選ばれている。しかし、25歳以上になると「適当な相手にまだめぐり合わない」という理由を挙げる者が半数程度いる。ただ、この年齢に至っても「必要性を感じない」「自由や気楽さを失いたくない」を選ぶ者は多く、とくに後者は若い年齢層よりも多く選ばれている。今回調査では「適当な相手にめぐり合わない」、男性で「結婚資金が足りない」などがこれまでの減少傾向に反して増えるなど、全般にやや傾向が変わった一方で、「仕事（学業）のうちこみたい」は若い年齢層を中心に著実に増えており、とりわけ女性で顕著である。

図1-9 年齢階層別にみた独身にとどまっている理由



注：未婚者のうち何%の人が各項目を独身にとどまっている理由（ついでに選択）として挙げているかを示す。

2. パートナーシップ - ゆらぐ男女のかかわり -

(1) 異性ととの交際

異性ととの交際の状況は低調なまま推移

「交際している異性はいない」と回答した未婚者は男性52.2%で過半数、女性では44.7%で前回調査よりやや(4.4ポイント)増加して半数弱となり、異性交際の状況はいぜん低調なまま推移している(表2-1)。また、結婚したいと思う交際相手(婚約者+恋人+友人)がいる未婚者(18~34歳)の割合は男性20.5%、女性27.3%で(図2-1)、男性では今回各年齢層でこれまでの減少傾向をやや戻したが、女性では30~34歳でのやや大きな変動を除き、調査間で大きな変化は見られない。

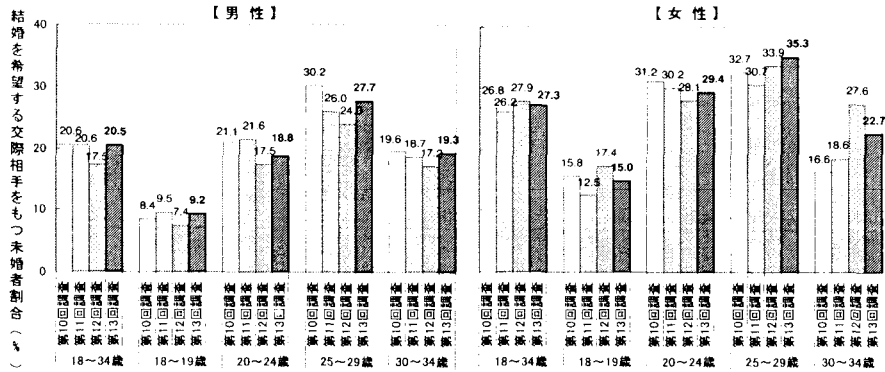
表2-1 調査別にみた、未婚者の異性ととの交際の状況

| 異性ととの交際 | 【男性】 | | | | | 【女性】 | | | | |
|------------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| | 第9回 (1987年) | 第10回 (1992年) | 第11回 (1997年) | 第12回 (2002年) | 第13回 (2005年) | 第9回 (1987年) | 第10回 (1992年) | 第11回 (1997年) | 第12回 (2002年) | 第13回 (2005年) |
| 婚約者がいる | 2.9% | 3.2 | 2.9 | 2.7 | 2.9 | 4.6% | 3.9 | 3.8 | 3.9 | 4.8 |
| 恋人として交際している異性がいる | 19.4 | 23.1 | 23.3 | 22.4 | 24.3 | 26.2 | 31.6 | 31.6 | 33.1 | 31.9 |
| 友人として交際している異性がいる | 23.6 | 19.2 | 15.3 | 11.3 | 14.0 | 25.4 | 19.5 | 15.9 | 12.4 | 12.9 |
| 交際している異性はいない | 48.6 | 47.3 | 49.8 | 52.8 | 52.2 | 39.5 | 38.9 | 41.9 | 40.3 | 44.7 |
| 不詳 | 5.5 | 7.2 | 8.7 | 10.9 | 6.6 | 4.3 | 6.3 | 6.8 | 10.2 | 5.7 |
| 総数(18~34歳) | 100.0% | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0% | 100.2 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| (標本数) | (3,299) | (4,215) | (3,982) | (3,897) | (3,139) | (2,605) | (3,647) | (3,612) | (3,494) | (3,064) |

設問「あなたには現在交際している異性がありますか。」

注：対象は18~34歳未婚者。

図2-1 調査・年齢別にみた、結婚を希望する交際相手をもつ未婚者の割合



注：異性の交際相手をもつ未婚者のなかで、その交際相手との結婚を希望する未婚者の割合を示す。対象は異性の交際相手がいる(「婚約者がいる」を含む)と回答した18~34歳未婚者。

(2) 同棲

同棲経験者、20代後半から30代で1割に達する

現在または過去に同棲した経験があると回答した未婚者は、男性7.9%、女性7.3%であり、近年わずかず増加を示している。とりわけ25~29歳、30~34歳での増加が明瞭で、今回調査では男性11.8%、9.9%、女性10.1%、10.6%と女性では30~34歳でも初めて1割に達した。しかしながら、現在同棲を継続している未婚男女は、女性30~34歳を除いてすべての年齢で前回調査より減少し、いまだ少数派である。

表2-2 調査・年齢階級別にみた、同棲経験のある未婚者の割合

| 年齢 | 【男性】 | | | | | 【女性】 | | | | |
|------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-------------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-------------------|
| | 第9回 (1987年) | 第10回 (1992年) | 第11回 (1997年) | 第12回 (2002年) | 第13回 (2005年) | 第9回 (1987年) | 第10回 (1992年) | 第11回 (1997年) | 第12回 (2002年) | 第13回 (2005年) |
| 18~19歳 | 1.2% (0.5) | 0.9 (0.2) | 0.6 (0.5) | 1.8 (0.8) | 0.9 (0.5) | 1.9% (0.8) | 1.3 (0.8) | 2.6 (1.0) | 3.0 (1.7) | 1.7 (1.1) |
| 20~24歳 | 3.5 (1.0) | 4.2 (1.3) | 4.5 (2.1) | 6.0 (2.8) | 5.7 (2.5) | 2.7 (0.8) | 3.1 (1.1) | 4.4 (2.3) | 7.5 (2.7) | 6.7 (2.2) |
| 25~29歳 | 3.3 (0.7) | 6.7 (1.3) | 7.1 (1.7) | 10.3 (2.8) | 11.8 (2.2) | 4.1 (0.0) | 4.5 (1.4) | 5.3 (1.0) | 10.0 (3.0) | 10.1 (2.9) |
| 30~34歳 | 5.0 (1.5) | 7.1 (1.6) | 6.0 (1.9) | 6.9 (1.8) | 9.9 (1.3) | 4.4 (0.6) | 6.1 (1.6) | 7.6 (1.5) | 8.2 (1.4) | 10.6 (3.0) |
| 総数(18~34歳) | 3.2% (0.9) | 4.5 (1.1) | 4.8 (1.7) | 6.7 (2.3) | 7.9 (1.9) | 2.8% (0.7) | 3.1 (1.1) | 4.6 (1.7) | 7.6 (2.4) | 7.3 (2.3) |
| (標本数) | (3,299) | (4,215) | (3,982) | (3,897) | (3,139) | (2,605) | (3,647) | (3,612) | (3,494) | (3,064) |

設問「あなたはこれまでに同棲の経験(特定の異性と結婚の届け出なしで一緒に生活をしたこと)がありますか。」

1. ない、2. 以前はあるが現在はしていない、3. 現在している

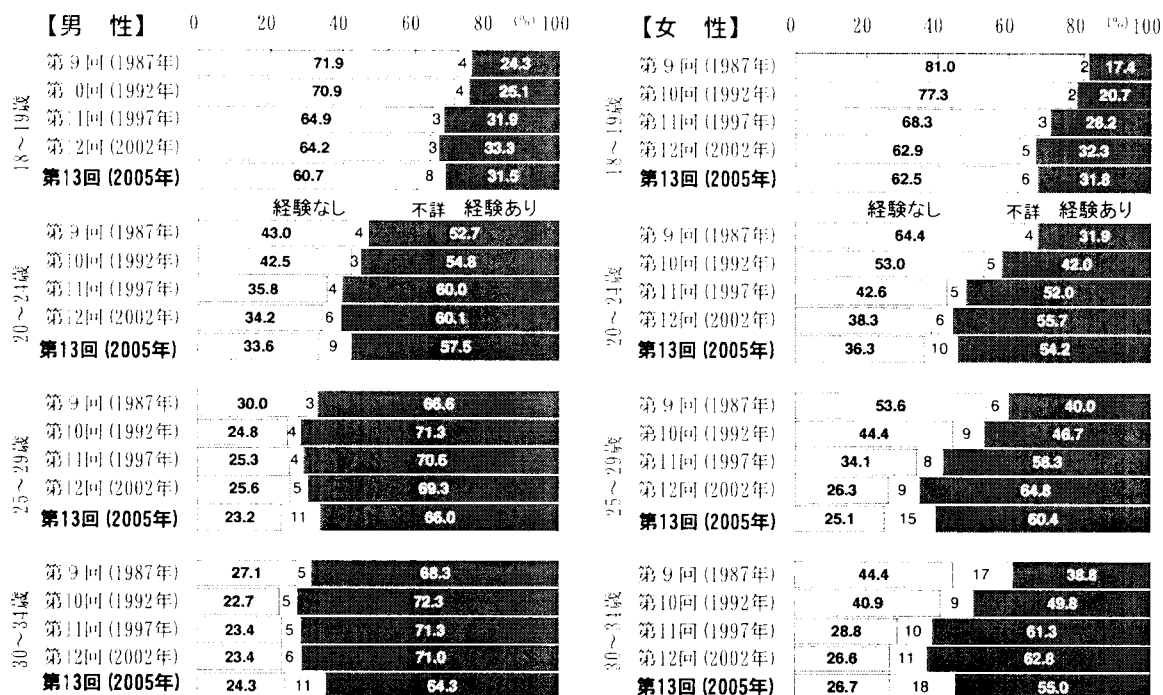
注：表中の数字は同棲経験を持つ人(選択肢2または3)の割合。また()の数字は現在同棲している人(選択肢3)の割合。

(3) 性経験と避妊

未婚者の性経験、増加傾向に停滞が見られる

性経験があると回答した未婚者は、男性58.2% (前回59.8%)、女性52.1% (55.4%)であった。前回調査までにみられた女性での性経験割合の上昇傾向は止まっており、男性に続いて女性でも頭打ちの傾向が見られた。

図2-2 調査・年齢別にみた、未婚者の性経験の構成比



設問「あなたはこれまでに異性と性交渉をもったことがありますか。」 1. あり、2. ない
 第13回調査の設問は、1. 過去1年以内にある、2. 過去1年以内にはないが、以前にはある、3. ない
 注：詳細な数値は付表4(巻末)参照。

性経験のある未婚男女の8割以上が避妊を実行

性経験のある18~34歳の未婚男女に、一番最近の経験における避妊実行の有無をたずねたところ、男性の84.7%、女性の82.4%が避妊をしたと回答した。方法別にみると、コンドームの使用が男性で80.3%、女性で73.7%と圧倒的に多い。ピル(経口避妊薬)の使用は男性で0.8%、女性では1.4%であった。

表2-3 年齢別にみた、性経験のある未婚者の避妊の実行割合

| 年齢 | 男性 | | | | | | | | 女性 | | | | | | | |
|-------------------|--------|---------|-------|--------------|-------|-----|------|-------|--------|--------------|-------|------|-----|------|------|-----|
| | 総数 | (標本数) | 避妊した | (再掲)方法(複数回答) | しなかった | 不詳 | 総数 | (標本数) | 避妊した | (再掲)方法(複数回答) | しなかった | 不詳 | | | | |
| | | | コンドーム | ピル(経口避妊薬) | その他 | | | | コンドーム | ピル(経口避妊薬) | その他 | | | | | |
| 第13回調査(2005年) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総数(18~49歳) | 100.0% | (2,382) | 83.0 | 78.0 | 1.0 | 5.9 | 16.0 | 1.1 | 100.0% | (1,887) | 81.7 | 71.8 | 1.4 | 11.4 | 17.1 | 1.2 |
| 総数(18~34歳) | 100.0% | (1,827) | 84.7 | 80.3 | 0.8 | 5.3 | 14.6 | 0.7 | 100.0% | (1,595) | 82.4 | 73.7 | 1.4 | 10.0 | 16.5 | 1.1 |
| 18~19歳 | 100.0 | (133) | 86.5 | 82.7 | 0.0 | 5.3 | 13.5 | 0.0 | 100.0 | (172) | 83.1 | 80.8 | 0.6 | 4.1 | 16.3 | 0.6 |
| 20~24歳 | 100.0 | (589) | 87.3 | 83.7 | 1.2 | 5.3 | 12.1 | 0.7 | 100.0 | (643) | 83.4 | 74.8 | 2.0 | 9.0 | 15.4 | 1.2 |
| 25~29歳 | 100.0 | (676) | 85.4 | 80.5 | 0.9 | 5.2 | 13.8 | 0.9 | 100.0 | (504) | 83.1 | 72.8 | 1.8 | 11.7 | 15.9 | 1.0 |
| 30~34歳 | 100.0 | (429) | 79.7 | 74.6 | 0.2 | 5.4 | 19.6 | 0.7 | 100.0 | (276) | 78.3 | 68.5 | 0.0 | 12.7 | 20.3 | 1.5 |
| 35~39歳 | 100.0 | (267) | 82.4 | 74.2 | 1.5 | 9.4 | 16.1 | 1.5 | 100.0 | (145) | 80.0 | 62.8 | 1.4 | 20.0 | 19.3 | 0.7 |
| 40~44歳 | 100.0 | (179) | 75.4 | 68.7 | 1.7 | 9.5 | 20.7 | 3.9 | 100.0 | (89) | 79.8 | 70.8 | 0.0 | 12.4 | 18.0 | 2.3 |
| 45~49歳 | 100.0 | (109) | 67.0 | 64.2 | 1.8 | 1.8 | 31.2 | 1.8 | 100.0 | (58) | 70.7 | 43.1 | 3.5 | 27.6 | 27.6 | 1.7 |
| (参考)第11回調査(1997年) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 35歳未満総数 | 100.0% | (2,395) | 76.1 | - | - | - | 19.5 | 4.2 | 100.0% | (1,823) | 70.5 | - | - | - | 26.1 | 3.5 |

注：対象は上記年齢層の性経験のある未婚者。方法別における「その他」には「オギノ式・基礎体温法」「性交中絶(体外射精)」を含む。方法別の数値は複数回答の結果であり、総数に占める割合を示す。第11回調査(1997年)では方法についてはたずねていない。なお国内では1999年に低用量ピルが認可されている。

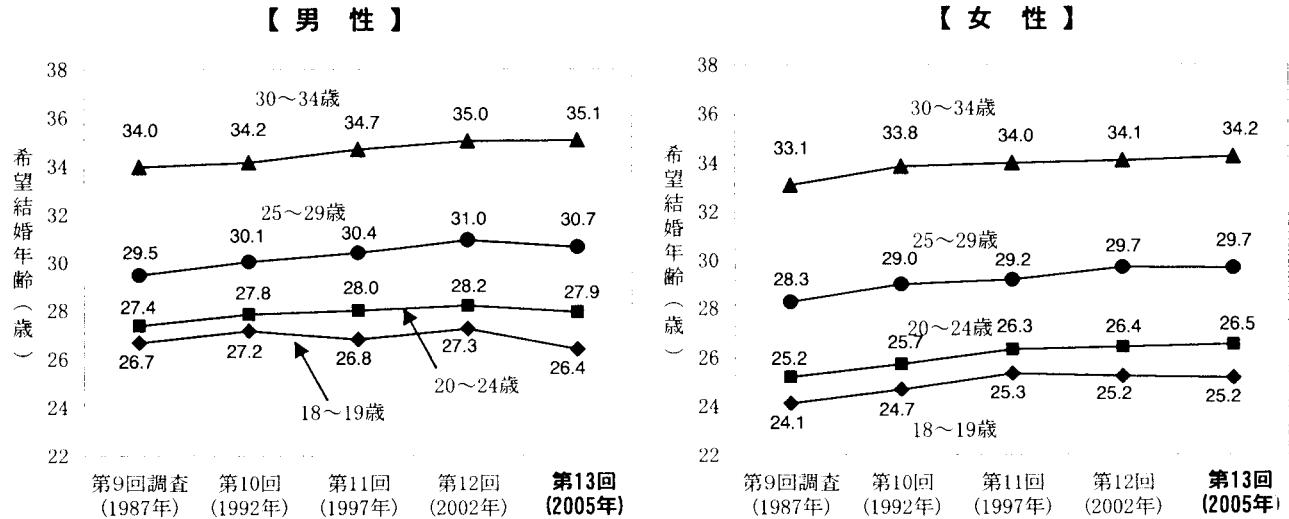
3. 希望の結婚像 - どんな結婚を求めているのか -

(1) 希望する結婚年齢

希望する結婚年齢の上昇傾向にほぼ頭打ちが見られる

未婚者が結婚したいと思う年齢(平均希望結婚年齢)は、ほとんどの年齢層において上昇が続いていたが、今回の調査ではおおむね上げ止まっており、男性ではわずかに下がる傾向も見られる。

図3-1 年齢別にみた、未婚者の平均希望結婚年齢の推移

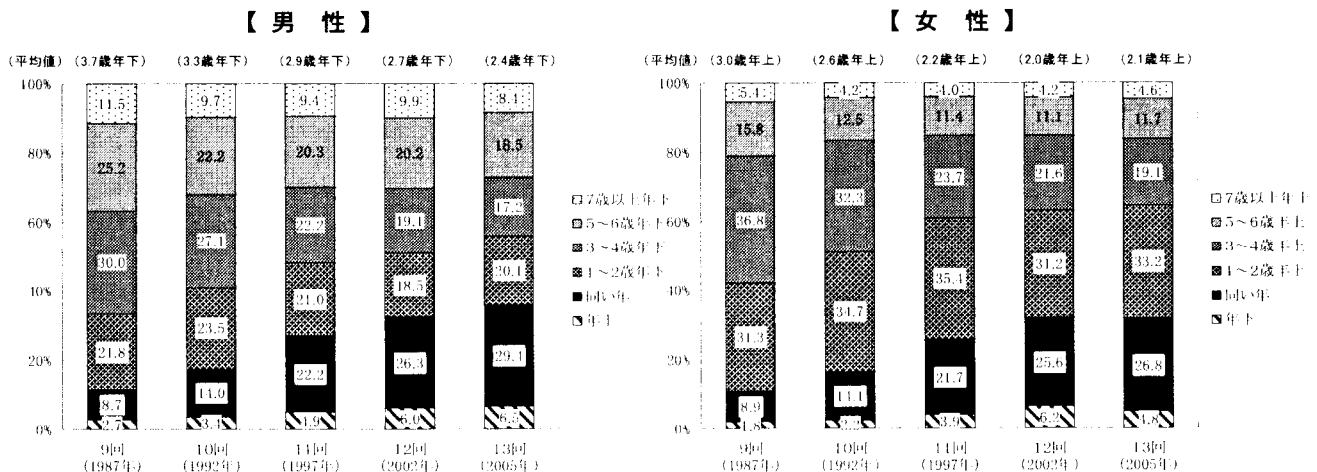


注：対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた18～34歳未婚者。

年齢の近い結婚相手を望む傾向、女性では一段落

結婚相手との年齢差についての希望を見ると、近年、男女ともに縮小傾向にあり、未婚者の中で年齢の近い相手(とりわけ同い年の相手)を希望する人が増えてきた。しかし、今回調査では女性でこの変化傾向に一定の休止が見られ、一段落を示している。

図3-2 調査・年齢別にみた、結婚相手との希望年齢差の構成



注：対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた18～34歳未婚者。希望する結婚相手との年齢差は、対象者が希望する本人と相手の結婚年齢の差。不詳を除く構成。図の上部()内は希望年齢差の平均値。なお、夫婦調査による実際の夫妻年齢差(調査時点より過去5年間に結婚した夫婦)は、第9回調査(1987年)2.9歳、第10回(1992年)2.6歳、第11回(1997年)2.4歳、第12回(2002年)1.7歳、第13回(2005年)1.7歳。

(2) 希望するライフコース

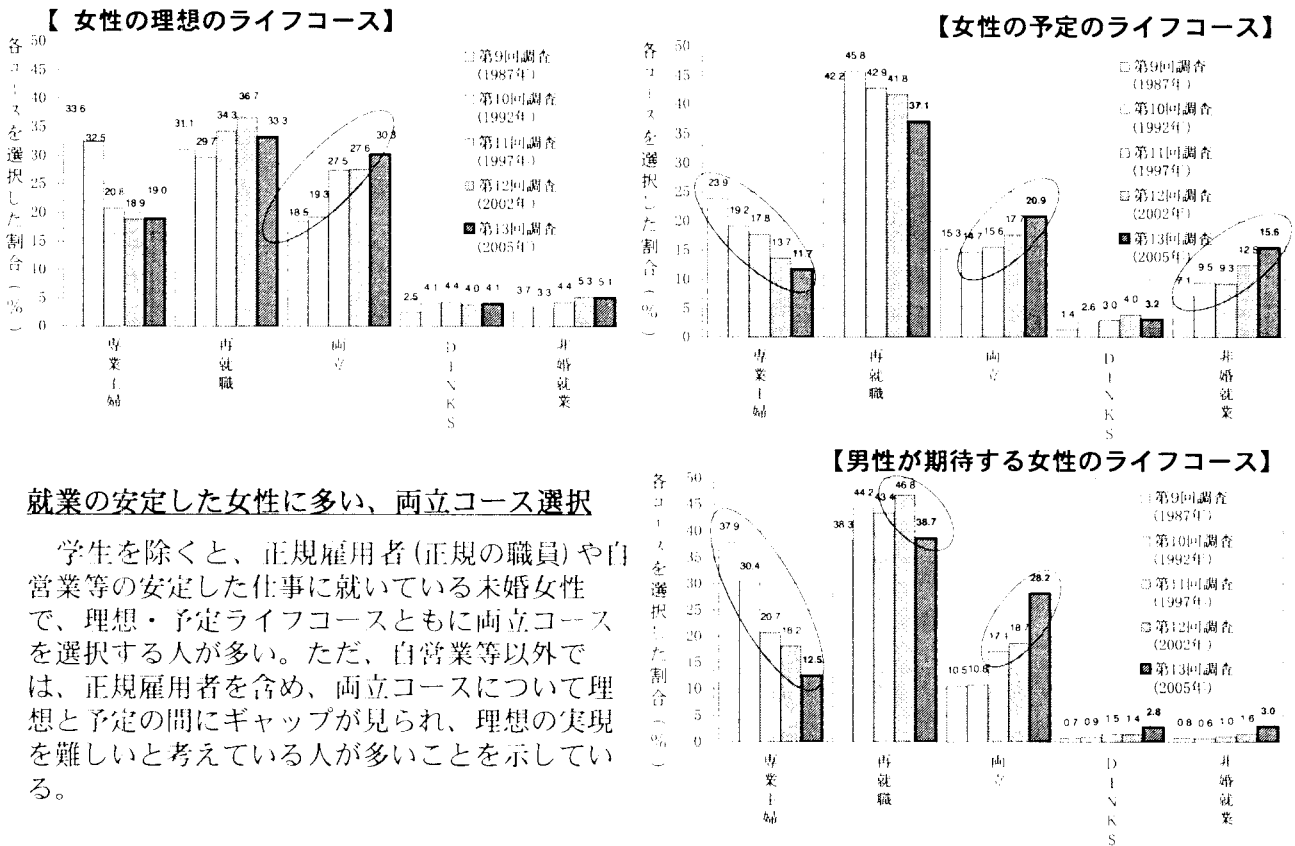
未婚女性の理想、予定のライフコースで「両立」が増加、女性に両立を期待する男性も約3割に

未婚の女性が理想とするライフコース(理想のライフコース)と実際になりそうだと考えるライフコース(予定のライフコース)では、ともに両立コースが増加した。一方で、再就職コースは減少している。予定のライフコースでは、専業主婦コースの減少傾向と非婚就業継続コースの増加傾向が続いている。男性がパートナーとなる女性に期待するコースでも両立コースが3割近くに達し、専業主婦を望む人は13%と急速な減少傾向が続いている。

ライフコースの説明：

- 専業主婦コース = 結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない
- 再就職コース = 結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ
- 両立コース = 結婚し子どもを持つが、仕事も一生続ける
- DINKSコース = 結婚するが子どもは持たず、仕事を一生続ける
- 非婚就業コース = 結婚せず、仕事を一生続ける

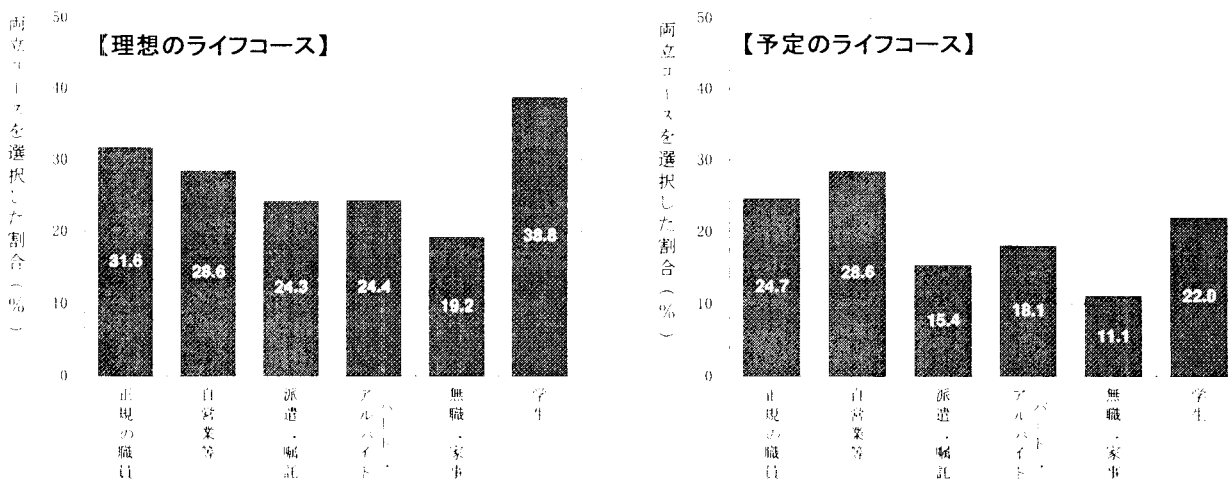
図3-3 調査別にみた、未婚女性の理想・予定のライフコース、および男性が期待する女性のライフコース



就業の安定した女性に多い、両立コース選択

学生を除くと、正規雇用者(正規の職員)や自営業等の安定した仕事に就いている未婚女性で、理想・予定ライフコースともに両立コースを選択する人が多い。ただ、自営業等以外では、正規雇用者を含め、両立コースについて理想と予定の間にギャップが見られ、理想の実現を難しいと考えている人が多いことを示している。

図3-4 就業の状況別にみた、両立コースを理想・予定とする未婚女性の割合



注: 対象は18~34歳未婚者。総数における両立コース選択割合は、理想コース30.0%、予定コース20.9%。就業の状況の構成については付表5(巻末)参照。

(3) 子ども数についての希望

未婚男女の希望子ども数は下げ止まり傾向

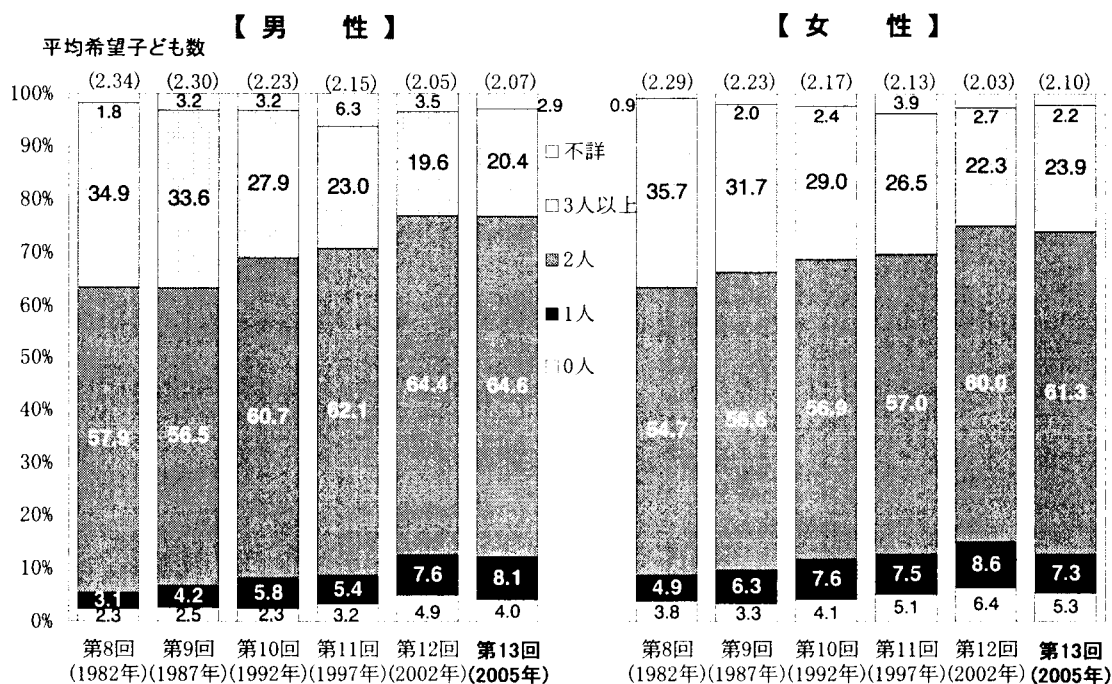
「いずれ結婚するつもり」の未婚者が希望する平均子ども数は1982年の調査開始以来減少する傾向にあったが、今回調査では男性2.07人(前回2.05人)、女性2.10人(2.03人)で、下げ止まりが見られた(表3-1)。希望子ども数の分布にも前回調査(2002年)からは大きな変化は見られない(図3-5)。また、希望子ども数は従来は男性の方が多い傾向にあったが、しだいに男女差が縮小し、今回は女性の数値が初めて男性を上回った。

表3-1 調査・年齢別にみた、未婚者の平均希望子ども数

| 【 男 性 】 | | | | | | |
|---------------------|------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 結婚 持続期間 | 第8回調査 (1982年) | 第9回 (1987年) | 第10回 (1992年) | 第11回 (1997年) | 第12回 (2002年) | 第13回 (2005年) |
| 18～19歳 | 2.32 | 2.30 | 2.19 | 2.21 | 2.18 | 2.15 |
| 20～24歳 | 2.35 | 2.30 | 2.25 | 2.15 | 2.05 | 2.11 |
| 25～29歳 | 2.37 | 2.30 | 2.22 | 2.14 | 1.99 | 2.05 |
| 30～34歳 | 2.30 | 2.26 | 2.21 | 2.13 | 1.98 | 2.01 |
| 総数(18～34歳) (標本数) | 2.34 (2,573) | 2.30 (2,929) | 2.23 (3,672) | 2.15 (3,203) | 2.05 (3,270) | 2.07 (2,652) |
| 【 女 性 】 | | | | | | |
| 結婚 持続期間 | 第8回調査 (1982年) | 第9回 (1987年) | 第10回 (1992年) | 第11回 (1997年) | 第12回 (2002年) | 第13回 (2005年) |
| 18～19歳 | 2.35 | 2.29 | 2.20 | 2.25 | 2.13 | 2.23 |
| 20～24歳 | 2.34 | 2.26 | 2.22 | 2.16 | 2.09 | 2.18 |
| 25～29歳 | 2.18 | 2.18 | 2.10 | 2.13 | 1.98 | 2.03 |
| 30～34歳 | 1.90 | 1.83 | 1.90 | 1.76 | 1.87 | 1.84 |
| 総数(18～34歳) (標本数) | 2.29 (1,970) | 2.23 (2,371) | 2.17 (3,212) | 2.13 (3,093) | 2.03 (3,001) | 2.10 (2,698) |

注：対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた18～34歳未婚者。平均希望子ども数は5人以上を5として算出。

図3-5 調査別にみた、未婚者の希望子ども数の分布

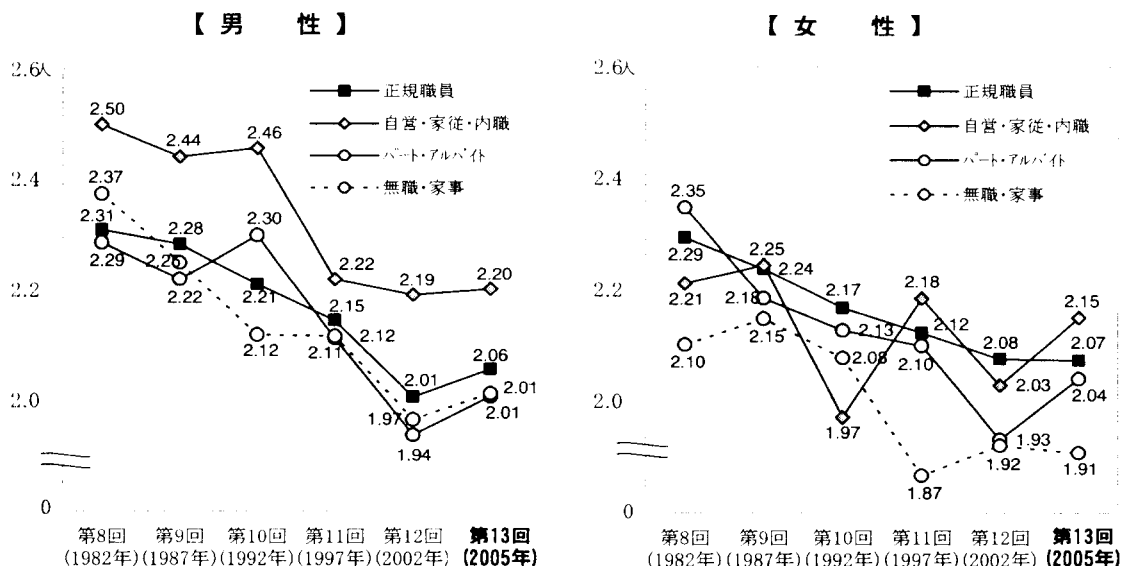


注：対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた18～34歳未婚者。図の上部()内は平均希望子ども数。

自営業の男性未婚者、およびきょうだい数の多い未婚男女で、希望子ども数が多い

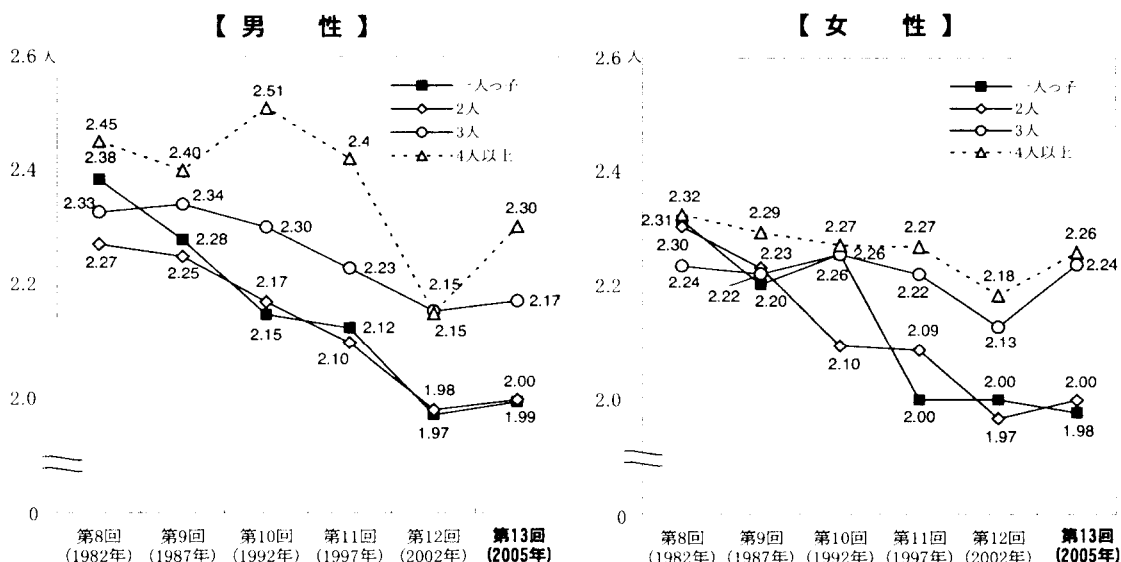
就業の状況別に未婚者の希望子ども数を見ると、男性では自営・家族従業等でとくに多く、男女とも無職・家事の場合に少ない傾向が見られる(図3-6)。非正規就業者(パート・アルバイト)の場合、正規雇用者(正規の職員)に比べて男女ともわずかに少ない傾向があるが、差は小さい。また、本人のきょうだい数別に希望子ども数を見ると、一人っ子や2人きょうだいに比べて3人以上のきょうだいの場合に希望子ども数が多い傾向が見られ、最近の調査ほどその差が顕著になってきている(図3-7)。

図3-6 就業の状況別にみた、未婚者の平均希望子ども数の推移



注：対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた18～34歳未婚者。希望子ども数は5人以上を5人として算出。就業の状況の構成については付表5(巻末)参照。

図3-7 本人のきょうだい数別にみた、未婚者の平均希望子ども数の推移



注：対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた18～34歳未婚者。希望子ども数は5人以上を5人として算出。

4. 未婚者の生活と意識 - 若者たちを取り巻く状況と意識 -

(1) 親との同居と就業の状況

未婚者の親との同居率は横這い

親と同居する未婚者の割合(同居率)は、男性では第11回調査(1997年)から第12回調査(2002年)にかけて上昇を示したが、今回調査ではおおむね横這いとなった。女性では年齢により異なる傾向がみられ、18～19歳の同居率が減少する一方で、従来低かった30～34歳の同居率が上昇する傾向がみられる。

表4-1 調査・年齢別にみた、親と同居する未婚者の割合

| 【 男 性 】 | | | | | | |
|------------|------------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 年齢 | 第8回調査 (1982年) | 第9回 (1987年) | 第10回 (1992年) | 第11回 (1997年) | 第12回 (2002年) | 第13回 (2005年) |
| 18～19歳 | 71.7% | 75.2 | 65.6 | 66.0 | 59.8 | 70.1 |
| 20～24歳 | 68.2 | 68.5 | 59.7 | 66.7 | 72.4 | 72.0 |
| 25～29歳 | 71.5 | 69.9 | 63.5 | 64.3 | 70.3 | 69.0 |
| 30～34歳 | 67.3 | 71.4 | 68.0 | 63.9 | 72.4 | 69.9 |
| 総数(18～34歳) | 69.6% | 70.4 | 62.8 | 65.5 | 69.5 | 70.3 |
| 参考(35～39歳) | - | - | 63.5 | 64.1 | 73.4 | 68.7 |

| 【 女 性 】 | | | | | | |
|------------|------------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 年齢 | 第8回調査 (1982年) | 第9回 (1987年) | 第10回 (1992年) | 第11回 (1997年) | 第12回 (2002年) | 第13回 (2005年) |
| 18～19歳 | 83.7% | 80.1 | 73.2 | 70.5 | 71.6 | 65.1 |
| 20～24歳 | 84.7 | 77.6 | 78.2 | 73.8 | 77.0 | 76.5 |
| 25～29歳 | 79.4 | 78.9 | 80.0 | 79.4 | 78.5 | 81.8 |
| 30～34歳 | 64.8 | 70.0 | 69.2 | 72.1 | 76.1 | 79.3 |
| 総数(18～34歳) | 82.0% | 78.0 | 76.7 | 74.5 | 76.4 | 76.4 |
| 参考(35～39歳) | - | - | 65.2 | 69.1 | 74.4 | 70.2 |

注：父母のどちらかと同居していれば「同居」とした。

就業の状況により異なる未婚男性の親との同居率

就業の状況別に親との同居率の違いをみると、男性の場合「パート・アルバイト」「自営・家族従業等」「無職・家事」で高く(80%台)、「正規の職員」「学生」で低い(60%台)。女性では「学生」を別にすると就業の状況による同居率の差は小さいが、相対的に「無職・家事」「パート・アルバイト」で高く、「正規の職員」「自営・家族従業等」で低い傾向が見られる(表4-2、図4-1)。

表4-2 調査・就業の状況別にみた、親と同居する未婚者の割合

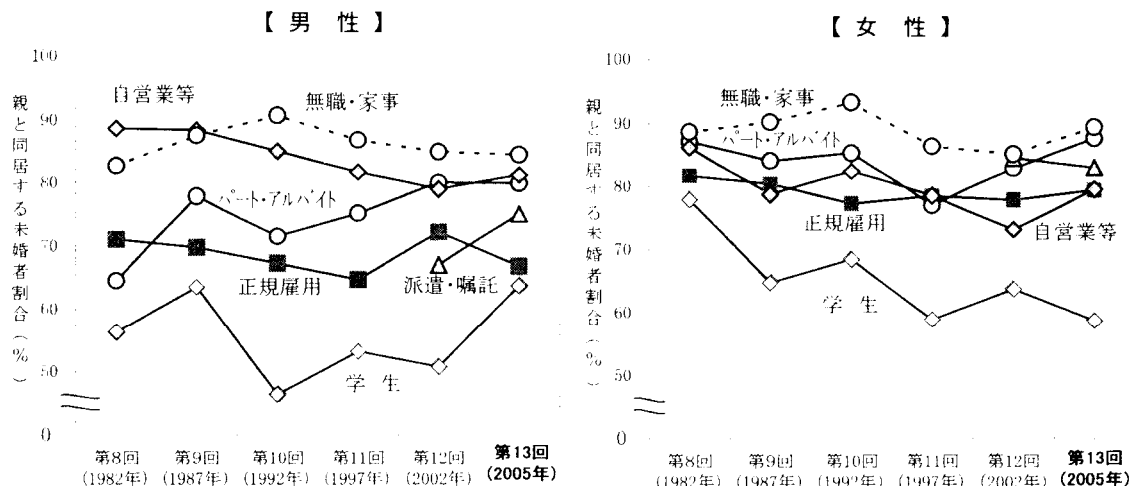
| 【 男 性 】 | | | | | | |
|------------|------------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 就業の状況 | 第8回調査 (1982年) | 第9回 (1987年) | 第10回 (1992年) | 第11回 (1997年) | 第12回 (2002年) | 第13回 (2005年) |
| 正規雇用 | 71.1% | 69.8 | 67.4 | 64.8 | 72.3 | 66.9 |
| 自営・家族従業等 | 88.7 | 88.5 | 85.1 | 81.8 | 79.1 | 81.4 |
| 派遣・嘱託 | - | - | - | - | 67.1 | 75.3 |
| パート・アルバイト | 64.6 | 77.9 | 71.6 | 75.3 | 80.1 | 80.0 |
| 無職・家事 | 82.8 | 87.6 | 90.8 | 86.9 | 85.0 | 84.6 |
| 学生 | 56.4 | 63.6 | 46.5 | 53.3 | 50.9 | 63.9 |
| 総数(18～34歳) | 69.6% | 70.4 | 62.8 | 65.5 | 69.5 | 70.3 |

| 【 女 性 】 | | | | | | |
|------------|------------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 就業の状況 | 第8回調査 (1982年) | 第9回 (1987年) | 第10回 (1992年) | 第11回 (1997年) | 第12回 (2002年) | 第13回 (2005年) |
| 正規雇用 | 81.7% | 80.4 | 77.4 | 78.5 | 77.9 | 79.5 |
| 自営・家族従業等 | 86.2 | 78.8 | 82.5 | 78.6 | 73.3 | 79.6 |
| 派遣・嘱託 | - | - | - | - | 84.6 | 83.1 |
| パート・アルバイト | 87.2 | 84.2 | 85.4 | 77.1 | 83.0 | 87.7 |
| 無職・家事 | 88.7 | 90.3 | 93.3 | 86.4 | 85.2 | 89.4 |
| 学生 | 78.0 | 64.9 | 68.6 | 58.9 | 63.9 | 58.8 |
| 総数(18～34歳) | 82.0% | 78.0 | 76.7 | 74.5 | 76.4 | 76.4 |

注：対象は、18～34歳の未婚者。父母のどちらかと同居していれば「同居」とした。

派遣・嘱託の区分は第12回調査以降で追加。就業の状況の構成については付表5(巻末)参照。

図4-1 調査・就業の状況別にみた、親と同居する未婚者の割合



注：本図は表4-2をグラフとして表したものの。数値は表4-2を参照。

(2) 女性の健康

未婚女性の5人に一人が問題を抱える

妊娠や出産にかかわる健康について、18歳～34歳の未婚女性の5人に1人(19.3%)が表中に示されるような問題や障害を感じていることがわかった。最も多いのは月経にかかわる問題であるが(15.0%)、30歳代では婦人科系の障害や不妊を心配する女性が多くなっている。

表4-3 年齢別にみた、未婚女性の妊娠・出産にかかわる健康状態

| 年齢 | 総数 | (標本数) | 何らかの問題がある | (複数回答) 月経がある(生理)に問題がある | 婦人科系の障害がある | 更年期障害がある | 性生活に問題がある | 不妊の心配がある | (流産しやすい) | 障害はない(左記のような問題や) | 不詳 | お(参考)ける妻(夫婦調査に) |
|----------------|--------|---------|-----------|---------------------------|------------|----------|-----------|----------|----------|------------------|------|-----------------|
| 総数(18～49歳) | 100.0% | (3,583) | 20.4% | 14.2 | 4.5 | 0.8 | 0.6 | 2.8 | - | 64.9 | 14.8 | 24.3 |
| 総数(18～34歳) | 100.0% | (3,064) | 19.3% | 15.0 | 3.7 | 0.2 | 0.5 | 2.8 | - | 66.1 | 14.6 | 21.2 |
| 18～19歳 | 100.0% | (541) | 14.4% | 12.9 | 1.3 | 0.0 | 0.0 | 1.7 | - | 71.7 | 13.9 | - |
| 20～24歳 | 100.0 | (1,187) | 19.6 | 16.3 | 3.0 | 0.0 | 0.6 | 2.0 | - | 65.7 | 14.7 | 17.9 |
| 25～29歳 | 100.0 | (834) | 21.1 | 15.5 | 4.4 | 0.1 | 0.8 | 4.0 | - | 64.4 | 14.5 | 19.7 |
| 30～34歳 | 100.0 | (502) | 20.9 | 13.2 | 6.6 | 1.0 | 0.2 | 3.8 | - | 63.8 | 15.3 | 22.4 |
| 35～39歳 | 100.0 | (255) | 23.9 | 10.2 | 8.6 | 0.8 | 0.8 | 4.3 | - | 57.7 | 18.4 | 19.5 |
| 40～44歳 | 100.0 | (161) | 21.7 | 6.8 | 9.3 | 2.5 | 0.6 | 1.9 | - | 61.5 | 16.8 | 26.2 |
| 45～49歳 | 100.0 | (103) | 39.8 | 11.7 | 11.7 | 16.5 | 1.9 | 1.9 | - | 51.5 | 8.7 | 31.9 |
| (参考) 夫婦調査における妻 | | | | | | | | | | | | |
| 総数(50歳未満) | 100.0% | (5,932) | 24.3% | 8.5 | 8.7 | 5.1 | 3.7 | (4.1) | 2.1 | 59.0 | 16.7 | |
| 総数(35歳未満) | 100.0% | (1,916) | 21.2% | 10.1 | 6.3 | 0.3 | 3.8 | (8.7) | 2.7 | 64.4 | 14.4 | |

注：対象は上記年齢層の未婚女性。婦人科系の障害とは、排卵障害、卵巣嚢腫、子宮筋腫、子宮内膜症、感染症などを含む。選択肢「その他」は掲載を省略。参考表における妻の結果は初婚どうし夫婦について。夫婦調査では「不妊の心配」については別の設問で訊いており、この設問では、代わりに「流産しやすい」という項目が入っている。